

2022年8月4日

四国電力株式会社
取締役社長 長井啓介 様

伊方原発をとめる会
事務局長 須藤昭男

伊方原発特重施設における長期にわたる保安規定違反に関する再質問書（公開質問）

原子炉の状況を把握するための計装設備が「すべて事故時に動作不能となる可能性があった」状態が9カ月も続いていた問題に関し、当会は貴職に公開質問書を届け、7月29日を期限として書面による回答を求めています。7月29日には口頭で回答する旨連絡がありました。私たちは、書面による回答を求めつつ、とりあえず回答を聴き取り、文字にして公開しました。

口頭回答の内容は、いっそう私たちの疑問を深めるものであり、下記の点を再質問します。回答内容を正確に理解するため書面で回答いただくよう強く要請します。

記

- (1) 書面で回答する方が、簡潔かつ正確に内容を示せるはずですが、書面回答を拒否する理由をうかがいたい。
- (2) 回答1では、「従来から設置している計装設備や新規規制基準適用時に設置した計装設備から得られる様々なパラメータを用いてプラント状態の確認、推計が可能であった」としています。しかし、公開された「用語解説」には、「事故時には従来の設備に加え、新規規制基準で設けた重大事故等対処施設にて対応が可能であり、万一これらが機能しなかった場合のバックアップとして特定重大事故等対処施設を設けている」とされています。今回の問題は、バックアップに頼るほかない場合の特重施設の計装設備が「動作不能」となる可能性が否定できなかったことであり、回答は全くピン外れではありませんか。従来の計装設備が不全となった後に特重施設の計装設備が働かなかった場合、どのような事態が想定されたのか示してください。
- (3) 回答2で、部品の取り付けができていなかった原因について「今後原因を調査し、必要な対策を検討する」としています。しかし、事態が把握されてすでに3週間経過していました。これから「調査」し「対策を検討」というのは怠慢ではありませんか。安全意識の欠如を感じざると得ません。この3週間、貴社は何をしていたのでしょうか。また同回答は、使用開始前の原子力規制委員会によるチェックには言及していません。いつどのようにチェックが行われたのですか。
- (4) 回答3は、テロ対策といえば何もかも秘密裏にできるかのような対応ですが、備品の取り付けができていなかったというような初歩的なミスについて住民、国民がチェックすることは、テロや大型航空機の衝突以前の問題であり、「危険」を防ぐために不可欠です。どこの計装設備でどのような部品の取り付けが欠落していたのですか。
- (5) 大きな不安をもつ県民に対し、ただちに謝罪するとともに説明責任を果たすべきではありませんか。この点についての認識を重ねて質問します。

8月10日着で当会事務局まで書面郵送またはメールによる回答を求めます。伊方原発をとめる会事務局
791-8015 松山市中央2丁目23-1 平岡ビル201 (メールアドレス ikata-tomeru@nifty.com)